

登録コード	UAA10500	開講年度	2026				
授業題目	文化情報論・社会学総合演習				担当教員	木村 宏人 他	
					副担当	渡邊 綾	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				現代の消費社会・文化の趨勢について、社会学を中心に人文社会科学系の国内外の研究を精査し、大学院レベルの研究課題・計画を立てられるようになる。		
(2)授業の概要	上記の目標に到達するため、本演習では、まず人文社会科学における研究法、理論と方法の関係について、文献を用いて丁寧に理解を深める。次に、現代の消費社会における先進的な消費社会・文化現象を、講義をとおして俯瞰する。続いて、そうした先進的な現象である脱物質主義的消費・持続可能な消費文化について、資料を収集して歴史的経緯・現状について十分に理解するとともに、国内外の量的・質的な先行研究を精査して、社会的・理論的な問題意識を深める。次に、人文社会科学の理論的視点から、脱物質主義的消費・持続可能な消費文化の現代的課題（研究課題）を絞り込み、明確化させる。そして、それらの研究課題に学術的に適切なアプローチを試みる調査計画を綿密に立てる。以上の講義を除くいずれの取り組みにおいても、学生による研究発表・ディスカッションの形式で授業を進める。なお、本授業に参加するには、社会学における主要な学説・理論・概念について、さらに、社会統計学、または心理統計学における記述統計・推測統計の基礎的事項について学部卒業レベルの習得を済ませていることを必要とする。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：人文社会科学における研究法 第3回：人文社会科学における理論と方法 第4回：先進的な消費社会・文化研究概論 第5回：脱物質主義的消費の国内先行研究の検討 第6回：脱物質主義的消費の海外先行研究の検討 第7回：持続可能な消費文化の国内先行研究の検討 第8回：持続可能な消費文化の海外先行研究の検討 第9回：資料・文献サーベイレポートの合評 第10回：脱物質主義的消費の現代的課題検討 第11回：持続可能な消費文化の現代的課題検討 第12回：脱物質主義的消費の調査計画検討 第13回：持続可能な消費文化の調査計画検討 第14回：最終プレゼンテーション 第15回：総括討議 定期試験は実施しない						
(4)成績評価の方法	資料の収集・分析，文献サーベイ，研究計画案の各セクション，授業でのディスカッションについて各25%×4の評価とする。 評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	以下のとおり評価基準を設定する。（1）資料の収集・分析を適切に実施している。（2）先行研究の文献を網羅的かつ適切に精査している。（3）研究計画案を適切に設定している。（4）授業でのディスカッションにおいて研究に資する有益なコメントをしている。（1）から(4)の4項目すべてを高水準で満たしていれば「卓越している」。4項目すべてを満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」、2項目までできていれば「水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	事前に文献を読了し、課題に取り組み、授業後は授業での指摘を課題の取り組みにフィードバックさせる。						
(7)履修上の注意	本授業に参加するには、社会学における主要な学説・理論・概念について、さらに、社会統計学、または心理統計学における記述統計・推測統計の基礎的事項について学部卒業レベルの習得を済ませていることを必要とする。						
(8)質問、相談への対応	質問、相談は授業後に対応する。						
【教科書】	なし						
【参考書】	盛山和夫，2004，『社会調査法入門』，ISBN: 4641183058，有斐閣．						